

人間の尊厳が守られていない「人体の不思議展」の開催中止を求める

2002年以降、全国で「人体の不思議展」が開催されています。プラストミックという技術で遺体そのものを標本として展示しており、各地では毎回多くの人々が訪れています。一つひとつの展示について十分な解説や、人体標本を展示する上での必要な配慮がなされておらず、教育的意義が大きいとは思えません。石川県でも、8月13日から金沢21世紀美術館での開催が予定されていますが、以下の問題があると考えます。

1. 人間の尊厳が守られていない

遺体への冒瀆は人間の尊厳をないがしろにするものです。「人体の不思議展」では、遺体が不必要なポーズをとらされているなど興味本位の見世物として扱われているように思えます。また、入場料を徴収し、会場に臓器をモチーフとした土産物を販売する売店も設置されるなど、明らかに遺体が営利目的のために使われています。

2. 自らの意思にもとづいた献体か、きわめて不明確である

標本について「遺体は生前の意思により献体されたものである」と紹介されていますが、意思確認の内容がきわめて不明確です。日本では、「医学及び歯学の教育のための献体に関する法律」によって献体について定められていますが、これはあくまでも医科・歯科大学などの教育に関する法律で、一般市民に有料で公開されることを想定したものではありません。このような展示方法で多くの観客の目に曝されることまで同意を得ていたかどうかは、はっきりしていません。しかも母体と胎児の標本があり、どのような手続きを経て献体の意思確認がされているのか、大いに疑問が残ります。

3. 標本に外国人の遺体を利用している

死体解剖保存法に照らして考えると、このような展示に日本人の遺体を使用することは、国内では認められていません。日本の展示会で使われている標本は、外国人の遺体を利用し、中国の工場で製造されていると言われています。主催団体は、遺体の提供・処理などの過程を明らかにすべきです。

以上のように、「人体の不思議展」が含んでいる問題は、人権の上でも医療倫理の上でも、看過できるものではありません。「人体の不思議展に疑問を持つ会」などが問題点を指摘し、国内外の批判が高まる中で少なくない団体等の抗議の声をうけ、日本医師会・日本歯科医師会・日本看護協会などをはじめ、各地の教育委員会など後援をとりやめる団体が出ています。

新聞社・テレビ局、各自治体・教育委員会などにおかれましては、本展示には人道的・倫理的に多くの問題があることを認識され、興業を目的としたこのような展示会の後援については取りやめていただくよう要望します。私たちは、国民の人権と医の倫理を守る組織として、人間の尊厳が守られていない重大な問題をもつ「人体の不思議展」の中止を求めるものです。

2010年4月26日
石川県民主医療機関連合会
会長 松浦 健伸